

感染防止対策上の試合進行と主審・副審によるコントロール

京都府小学生バレーボール連盟審判委員会より

- ◇フロアは入換え制とする。ベンチなどの消毒終了後、大会本部からの指示により、次に試合のチームは移動を開始する。
- ◇試合中のコートチェンジは行わない。
- ◇会場では、常時マスク着用（フェイスシールドは不可）を義務とする。ただし、エントリーされている選手は、ゲームに出ている間と公式ウォーミングアップ、合同練習の間はマスクを外しても構わない。
- ◇電子ホイッスルを使用するので、主審副審を含めた全ての審判補助役員もマスク着用とする。
- ◇ベンチではタオルや水筒は混ざることがないようにチームで配慮すること。
- ◇キャプテンによるトスの際、監督同士や審判との握手も行わない。
- ◇ゲーム中に集まって激しく声を出すことは控える。合わせて、ベンチからの大きな声での指導や激励もしない。※主審と副審でコントロールする。
- ◇記録用紙への記入や試合開始前と終了後の監督やキャプテンのサインは、できるだけ各チームで用意した筆記用具を使用してください。（大会本部でも用意します）

『実際の取扱』 本来と違う点

試合開始時

- ・全エントリー選手がエンドラインに整列。主審の吹笛後、その場で礼をしてベンチに戻る。

セット終了時

- ①主審による終了の吹笛とシグナル（副審は2分30秒間の計時を開始する。）
 - ②選手はエンドラインに並ぶ。（6人）
 - ②主審の吹笛とシグナル（規定はないのでベンチに戻ることを促す動きを）で、選手は自ベンチに戻る。
- ※フルセットの場合、ボール（サーブを打つか受けるか）のみの選択のため、キャプテンによるトスを行う。

試合終了時

- ・全エントリー選手がエンドラインに整列。主審の吹笛後、その場で礼をしてベンチに戻る。
- ・選手は各々で自分のタオルや水筒を持ち、大人のベンチスタッフによるベンチの消毒後、コートを空ける